

2024年5月31日

学校関係者評価報告書

(2023年度)

群馬パース大学福祉専門学校
(学校関係者評価委員会)

※この報告書は、「自己評価報告書」に学校関係者評価委員会の評価を追記してまとめたものである。

目 次

I	学校の現況	2
II	評価の基本方針	7
III	重点目標	8
IV	評価項目の達成及び取組状況	12
(1)	教育理念・目標	12
(2)	学校運営	13
(3)	教育活動	14
(4)	学修成果	16
(5)	学生支援	17
(6)	教育環境	19
(7)	学生の受入募集	20
(8)	財務	21
(9)	法令等の遵守	22
(10)	社会貢献・地域貢献	23
(11)	国際交流	24
資料	1	26
資料	2	27
資料	3	28

I 学校の現況（2023年4月1日現在）

1 施設の概要

- (1) 名称 群馬パース大学福祉専門学校
- (2) 所在地 〒377-0008 群馬県渋川市渋川 1338-4
- (3) 設置者 名称 学校法人群馬パース大学
代表者 理事長 樋口 建介
開設日 1992年4月1日
- (4) 教職員数 校長以下 20人
- (5) 開設学科 3学科
 - ・ 介護福祉学科 2年制 定員 50人(1学年)
 - ・ 保育学科 2年制 定員 50人(1学年)
 - ・ 介護福祉専攻科 1年制 定員 30人
- (6) 在籍学生数(2023年4月1日現在)

	1年	2年	合計
介護福祉学科	32	40	72
保育学科	21	13	34
介護福祉専攻科	3		3
合計	56	53	109

- (7) 沿革
 - ・ 1992年3月 ほたか保健福祉専門学校設置認可(群馬県)
 - ・ 2007年4月 群馬パース福祉専門学校に校名変更
 - ・ 2010年4月 キャンパスを群馬県吾妻郡高山村に移転
 - ・ 2014年4月 群馬パース大学福祉専門学校に校名変更
 - ・ 2017年4月 キャンパスを群馬県渋川市渋川に移転

2 建学の精神

Pazは、平和を意味するポルトガル語、パース(Paz)に由来する。

また、同時にPazにはこの3文字を頭文字とする「Pessoa(個性～個人の尊厳と自己実現)」「Assistencia(互助～多様な人々の共存と協調)」「Zelo(熱意～知の創造)」の意味が与えられている。

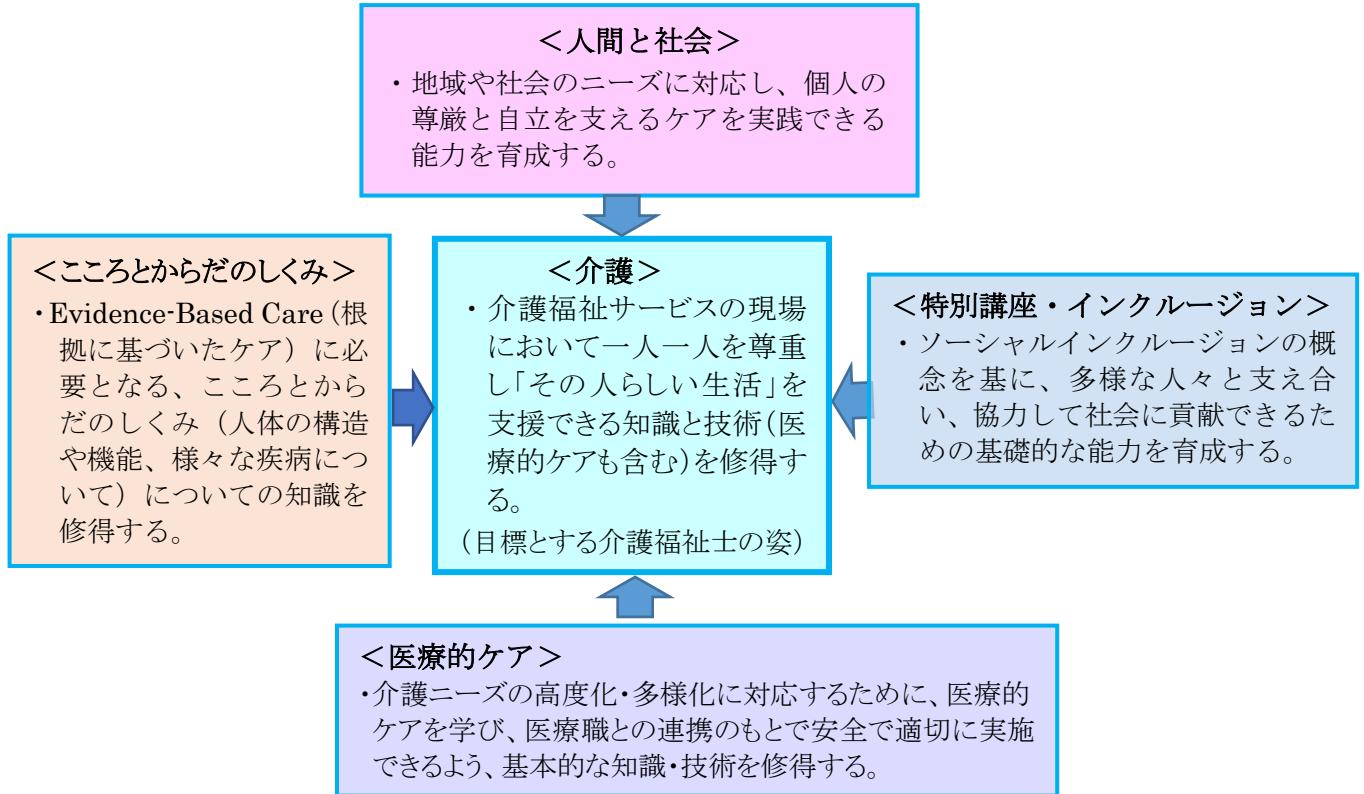
3 教育理念

「人間愛と人間尊重」を基盤にした豊かな人間性を養い、「生命への尊厳」に支えられた介護、保育の専門的知識や技能を身に付け、広く社会に貢献できる人材を育成する。

4 教育目標

【介護福祉学科・専攻科】

- 介護福祉学科のカリキュラムは5つの分野から成り立ちそれぞれ教育目標を定めている。5つの分野が独立しているのではなく、介護の分野が軸となり、他の4つの分野が補っている。



【保育学科】

- 子どもの思いに寄り添う感性を養い 個々の子どもの育ちを支える知識や技能を修得する。
- 一人一人の子どもの命を守り育てるために、医療的な知識及び学校保健の基本的な知識の修得と実践力を養う。
- 地域社会や家庭とよりよい関係を構築し、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を養う。
- コミュニケーション力を高め協働する力を養う。

5 教育方針

各学科3つのポリシーで示す。

【介護福祉学科・専攻科】

《アドミッションポリシー》

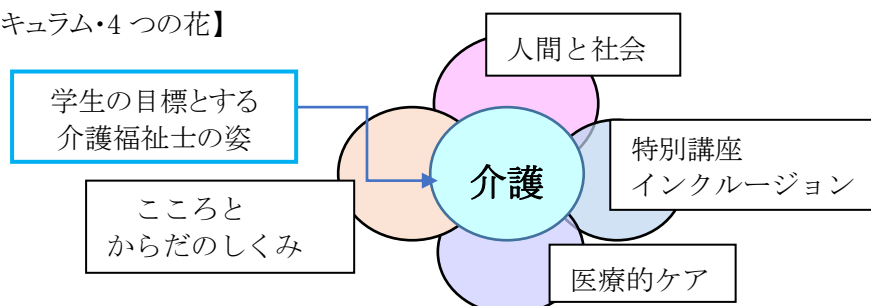
- 介護に関心を持ち、思いやりの心を持って相手を尊重することができる人
- 社会における介護の必要性を理解し、社会貢献・奉仕の心を持つ人
- 目標達成に向けて、日々の努力を惜しまず成長しようとする人

《カリキュラムポリシー》

ディプロマポリシー（学生の目標とする介護福祉士の姿）達成に向けて

(1)「介護」のねらいは、カリキュラムの4つの分野「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「医療的ケア」「特別講座・インクルージョン」と連携し知識や技術を修得することで達成できる。各分野の教員が連携して指導に当たる。

【カリキュラム・4つの花】



(2)実習経験を積み重ねることで実践力を身に付けていけるように段階を追って目標を定め指導する。

- * 介護福祉学科 カリキュラムマップ 資料1 参照
- * 介護福祉専攻科 カリキュラムマップ 資料2 参照

《ディプロマポリシー》

- 高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できる知識と技術を身に付けている。
- 介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を身に付けている。
- コミュニケーション力を持ち協働する力を身に付けている。

【保育学科】

《アドミッションポリシー》

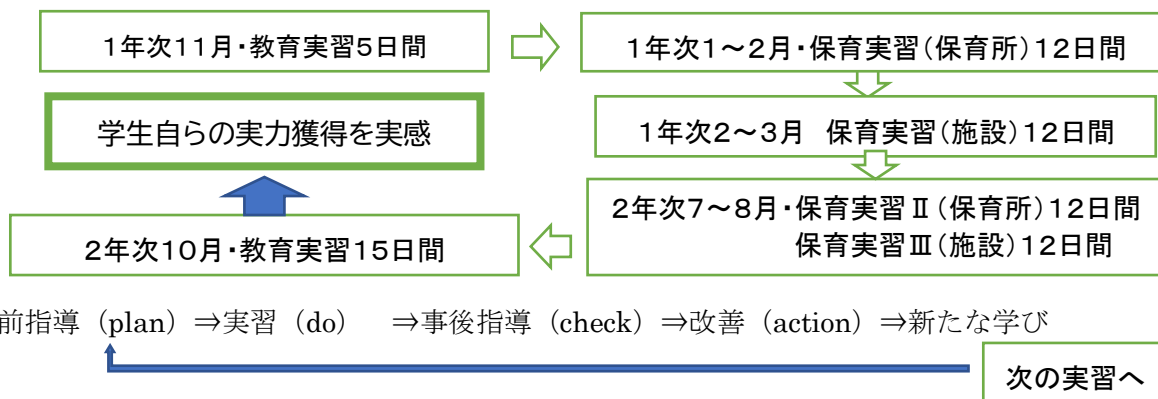
- 保育や幼児教育に関心を持ち、深い愛情を持って、子どもとコミュニケーションがとれる人
- 子どもの命を預かる責任感を持って、常に注意深く子どもを見られる人
- 目標達成に向けて、日々の努力を惜しまず成長しようとする人

《カリキュラムポリシー》

ディプロマポリシー達成に向けて

(1) 教育実習・保育実習を経てアクティブラーニング型授業での学習展開（『 』は、科目名）

- ① 2年間で 5 回の実習を経て段階を追って学びが深まり実力が付くように、実習担当教員を中心に、全教員が協力して個々の学生の能力に応じたきめ細かな指導をする。
- ② 実習においては、全ての学習の学びが関連しているが、特に、『保育実習指導』を基本に『保育実践演習』『保育キャリアデザイン』『特別講座』とも連携して実習の事前・事後指導を行う。
- ③ 実習ごとに PDCA サイクルで学ぶ。



④ 実習前後の指導を全体指導と巡回指導担当教員による個別指導を組み合わせ、個々の学生の能力に応じた指導をする。

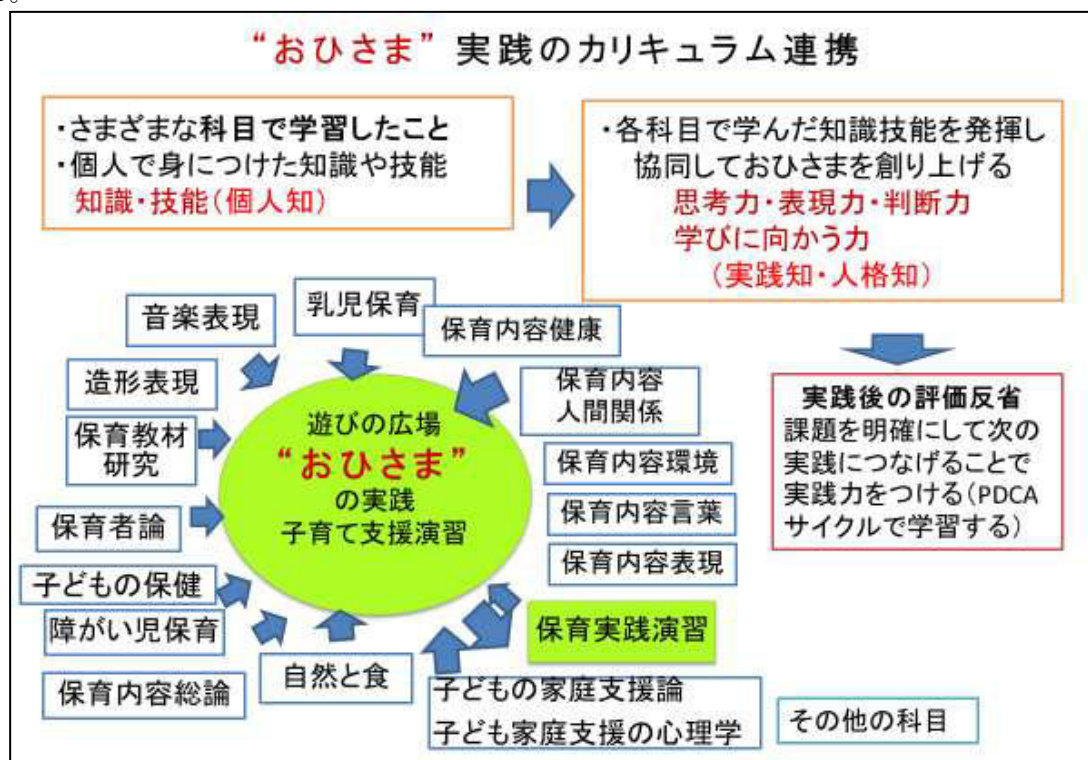
* 保育学科カリキュラムマップ 資料3 参照

(2) 『保育・子育て支援演習』『保育実践演習』で取り組む「おひさま」を中心とした学習展開

併設する渋川市子育て支援総合センターと連携して、子育て支援事業・遊びの広場「おひさま」(以下、「おひさま」)を実践する中で、子どもとの関わり方や、読み聞かせ、手遊び、歌、劇の実演方法などの学習や、子どもの育ちを見取った上での環境の構成や援助について学ぶと共に、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を養う。そのため、『保育・子育て支援演習』『保育実践演習』と連携した学習展開をすることを基本に、その他の科目での学習とそこで身に付けた知識や技能を發揮し協働して「おひさま」を創り上げる体験をする。

学生の習熟度に応じて学習が進められるように、『保育実践演習』と連携し、学生個人がPDCAサイクルで学び、実践力修得を確実なものにしていく。

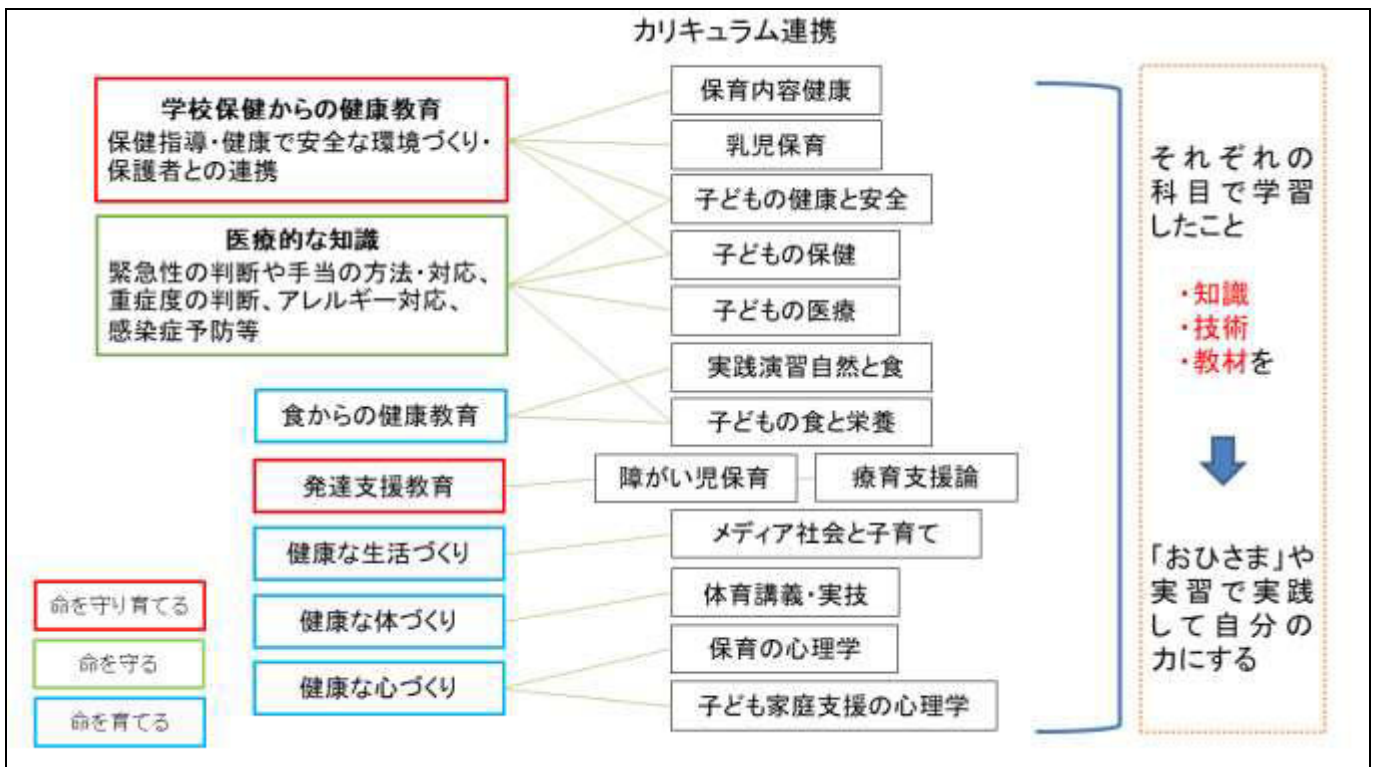
そこで、下図のようなカリキュラム連携で、学生が主体的に学び実践力の向上が実感できるような学習展開にする。



(3) 医療的な知識と学校保健活動の専門的な知識を学ぶためのカリキュラム連携

「子どもの命を守り育てる保育者を養成する」という目標のもとに、「命を守る」視点と「命を育てる」視点で、下図に示す科目の中で授業内容の検討と連携を試み、目標達成に向けての学習展開を考察していく。

なお、学生の実践の場としては、保育・教育実習、「おひさま」で、保健指導の実践(自作の教材・絵本や紙芝居などを使つての健康指導・食育)、身体諸機能の発達促進や安全感覚を養う運動遊びなどの実践をする。



《ディプロマポリシー》

- 子どもの生きる力を育むために、さまざまな子どもの思いに慈しみをもち寄り添い、個々の育ちを支える知識や技能を身に付けている。
- 一人一人の子どもの命を尊び、守り育てるために、医療的な知識及び保健活動の専門性を有している。
- 地域社会や家庭とより良い関係を構築し、子育て支援の多様なニーズに対応できる力を身に付けている。
- コミュニケーション力を持ち協働する力を身に付けている。

II 評価の基本方針

群馬パース大学福祉専門学校は、「人間愛と人間尊重」「生命への尊厳」を基盤に専門的な知識・技能を修得し、介護や保育の現場で活躍できる福祉・保育のスペシャリストの養成を目指している。

また、自らの教育活動や学校運営について、自己点検評価を実施し情報公開すると共に、学校関係者評価委員の協力を得て教育活動のさらなる充実を目指している。

1 対象期間

2023年4月1日～2024年3月31日

2 実施方法

(1) 実施組織 教育活動推進担当（自己点検評価委員会）

○総括 神野 校長

○担当者 木村(校長補佐)、都丸(副校長)、古川(介護福祉学科教務主任)、深澤(介護福祉学科教員)、千田(介護福祉専攻科教務主任)、塩澤(保育学科教務主任)、井上(保育学科教員)、谷畑(事務主任)、廣橋(事務)

(2) 評価基準

文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠する。

(3) 評価方法

教育活動推進担当者会議を開催し、昨年度からの課題を引き継ぎ、各学科・事務局・各分掌担当が自己点検評価を実施し取りまとめる。

3 評価項目

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献
- (11) 国際交流

4 項目に対する評価

(1) 4段階で評価する。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2) 各評価項目で、特記すべき取り組み状況や課題・対策などを記載する。

Ⅲ 重点目標

【介護福祉学科重点目標】

(1)高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できるような知識と技術を持つ介護者を養成する。

(2)介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を有する介護者を養成する。

重点目標を効果的に身に付けることができるように、カリキュラム検討と教員相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようなカリキュラム構成をする。(資料1 参照)

1 重点目標(1)について

《現状》

『介護過程』や『生活支援技術演習』の学習を通じて、利用者一人一人の生活課題を考え、必要な支援を学んでいる。2年次の介護実習では担当利用者を持ち、その方の生活課題は何か、必要な支援は何かという個別ケアと自立支援の観点から実習を展開している。

《成果と課題》

本年度も新型コロナウイルス感染症(以下 COVID-19)の影響のため、学内演習での振り替えが生じた。

COVID-19の影響で、実習経験が少なくなっていることから、介護過程の習得が課題となっていた。少しでも習得度を上げるために、両学年とも講義を教員2人体制で行った。学生からの質問などにすぐに対応でき、講義内容の理解に繋げることができた。

今後も「その人らしさ＝個性」を考えた介護を展開できるように、講義・演習の中でより具体的な事例を通じて個別ケアを理解しやすい授業を展開する必要がある。

2 重点目標(2)について

《現状》

卒業に必要な医療的ケアの時間数は50時間である。本校はその3倍以上の165時間行っている。内容は医療的ケアに関する知識・技術のほかに、バイタルサインの測定方法や幅広い医療的知識・技術が修得できるようなカリキュラムになっている。

《成果と課題》

医療的ケア実習(実地研修)について、本校で定めている基準を満たした希望者16名(年度末在籍2年生40名中)が修了することができた。

【介護福祉専攻科重点目標】

(1)高齢者、障害者など介護福祉サービスの現場において、一人一人を尊重し「その人らしい生活」を支援できるような知識と技術を持つ介護者を養成する。

(2)介護ニーズの高度化と多様化に対応するために、医療的な知識及び技術を有する介護者を養成する。

重点目標を効果的に身に付けることができるように、カリキュラム検討と教員相互の教育内容の連携を図る。講

義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようなカリキュラム構成をする。(カリキュラムマップ 資料2 参照)

1 重点目標(1)について

《現状》

保育士資格取得時に学んだ内容や経験、及び介護福祉専攻科として学んだ介護に関わる知識も統合し、利用者の個別性に応じた介護を展開できるよう指導している。

《成果と課題》

介護実習において、COVID-19 の影響により数日間の学内演習を行うなど、感染予防の観点から、実習施設と学校での調整が本年度もあった。昨年度に比べるとその影響は小さくなったが、軽視できない状況は続いている。しかしながら、介護実習を施設で行える状況も増えたことにより、直接見学し、体験させていただく機会が増えたことで、学生の理解度は上がったと思われる。

2 重点目標(2)について

《現状》

卒業に必要な医療的ケアの時間数は50時間であるが、介護福祉専攻科は90時間行っている。内容は医療的ケアに関する知識・技術のほかに、バイタルサインの測定方法や幅広い医療的知識・技術が修得できるようなカリキュラムになっている。

《成果と課題》

演習時間など、少人数であることから気を抜くことなく学ぶことができている。医療的ケア実習(実地研修)については、希望者全員(3名)が成績や技術習得について規定のラインをクリアし、2月に実施・終了できた。

【保育学科重点目標】

(1)子どもの生きる力を育むために、子どもの思いに寄り添い育ちを支える力を持つ保育者を養成する。

(2)子どもの命を守り育てるために、医療的な知識及び学校保健活動の専門性を有する保育者を養成する。

2年間という限られた修学期限の中で、上記のような重点目標を効果的に身に付けることができるようにするために、カリキュラムを検討し教員相互の教育内容の連携を図る。講義・演習・実習の学習サイクルで、学生自身が意欲を持って学び、自ら実力の獲得を実感しつつ学習内容を深めていけるようにする。

そこで、昨年に引き続き今年度においても目標達成に向けて次のような方策で取り組む。

1 重点目標(1)について

① 教育実習・保育実習の学習展開の工夫

《現状》

a 講義・演習・実習の学習サイクルで実践力を身に付けるために、2年間・5回の教育・保育実習を有効にするカリキュラム連携や各教員の指導内容を工夫すると共に、実習担当教員を中心に、全教員が協力して個々の学生の能力に応じたきめ細かな指導をしている。

- b 実習においては、本年度は5月にCOVID-19が5類に移行したこともあり、実習受け入れの中止や期間短縮・変更等の影響を受けることなく、全ての学生が現場で予定通り実習を行うことができた。ただし、学生への感染対策指導は引き続き徹底して行い、実習1週間前から実習終了日まで毎日、「健康チェックシート」に体調と外出先を記載し提出させる対応は継続した。わずかだが実習初日に抗原検査を求められる施設もあり、個人対応とした。
- c 昨年度の1月～3月にかけて行われた保育実習Ⅰ（保育所・施設）の実習で、数人の学生が保育実習生としてのマナーや態度・自己表現について課題を指摘された。そこで、本年度前期に該当学生に対して“学校生活の全般にわたって、特に行動面に焦点を当てた補完学習”を実施した。具体的には①挨拶、報告・連絡・相談・確認、許可などを適切に相手に伝わるように言う。②クラスメイトや教職員と円滑にコミュニケーションをとり、協働して物事に取り組む。③自発的、主体的、積極的に授業や学校生活における様々な活動に取り組む。この3点を目標として、行動モニタリング表の記入と毎月の個別面談による振り返りにより指導を実施した。
- d 1年生については、保育士資格のみ取得する「保育士コース」及び保育士資格に加え、幼稚園教諭免許を取得する「保育士・幼稚園教諭コース」を創設した。「保育士・幼稚園教諭コース」では1年次11月に5日間の教育実習を行ったうえで、1月からの保育実習に臨んだ。「保育士コース」では、保育実習が初めての実習となり、経験の差を考慮しながら実習指導を行った。

《成果》

- a 学生が、保育や施設の現場で実際に実習することを通して、様々な経験をして保育者となる学びを積み、一回りも二回りも成長する姿が見られた。学生が現場で実習することは、何物にも代え難い価値があると改めて実感させられた1年だった。
- b マナーや態度・自己表現については、一朝一夕で身に付くものではないため、まずは課題となる点を自分で意識し、小さな行動を積み重ねることを心がけながら日々の授業や学校生活に取り組み続けることが重要になる。学生は、毎日の記録によりその意識付けと行動に移すことが少しずつできるようになっていった。また、定期的な面談で教員によりフィードバックを受けることで、自身のどのような行動が保育学生として必要な行動なのか、どのような点が引き続き課題となっているのかを認識し、翌月の行動改善につなげていくことができたと思われる。
- c 2年生の保育実習Ⅱ・Ⅲ後に実習の成果を報告書とポスターにまとめ、それを基に9月に毎年実施している「実習報告会」は、伝統が引き継がれ充実したものになっている。2年生は、昨年の先輩の発表を受けて、自身が発表者となった際に堂々とプレゼンテーションする姿が見受けられた。1年生はそれをととても熱心に学び取ろうと参加していた。この実習指導の授業は、学生にとって貴重な成長・学びの場として機能している。

《課題》

- a 実習に際してのCOVID-19の影響が少なくなったとはいえ、なおも学生の健康管理・感染予防対策への意識が、常に高く保たれるよう気を緩めず指導する必要がある。特に、一部の学生ではあるが生活リズムや食生活の乱れによる体調不良や欠席が目立つ者もあり、学校生活・実習・就業後も含めて、保育者としての健康管理の重要性について繰り返し指導していくことが必要である。

- b また保育実習生としてのマナーや態度・自己表現については、個人個人としての行動変容という点からすると成果が見られたが、まだ現場で保育者として働くときに求められる水準には達していない学生もいる。それは実習だけでなく学校生活のあらゆる場面で意識して育てていく必要があるといえる。
- c 実習報告会については、学生募集停止により、次年度は2年生のみでの実施となる。実施形態を少々変更して、クラスメイト同士での学び合いの場となるよう工夫する必要がある。

②『保育・子育て支援演習』を中心とした学習展開

《現状》

渋川市と連携して開催している遊びの広場「おひさま」は、今年度で7年目を迎えた。コロナ禍の3年間は感染防止のため、活動に大きな制限を伴った。COVID-19の5類移行後も渋川市子育て支援総合センターの対応に合わせて本校学生もマスクを着用し、引き続き開催時間を60分に短縮するなどの制限があったものの、毎回25人前後の子どもが参加した。

また、実践の中心となる2年生は少人数であるため、従前の構成では運営が難しいと考えられた。そのため、構成内容を再検討すると共に、1年生の参加頻度を増やした。また、リハーサル時には1年生が他科目の授業の一環として参加した。

《成果》

- a 本年度はカリキュラム連携の一つとして、1年生も他科目の授業の一環として遊びの広場「おひさま」の準備に携わった。その結果、授業の学びを実際の保育場面として考える機会となった。

《課題》

- a 次年度の遊びの広場「おひさま」は、入学生がいないため2年生のみの開催となる。そのため、運営方法、支援内容を再構築する必要がある。

2 重点目標(2)について

《現状》

2021年に医療的ケア児支援法が制定された。今後、医療的ケア児の保育所等での受け入れが広がり、専門的な医療の知識を持った保育者が求められる時代になっていくことが予想される。

そのため、本校では、看護系やリハビリテーション系の専門教員の指導のもと、関連科目が連携し(カリキュラムポリシーを参照)小児医療の専門的な知識を修得し保健指導が実践できる保育者養成に努めている。

《成果》

- a 遊びの広場「おひさま」の実践では必ず保健指導のプログラムを入れ、本年度は、子どもが真似できるような歌や動作等を取り入れた指導用教材を作成し実践した。そのことが学生同士の学び合いになり、保育現場での実践につながる内容となった。
- b 『保育・教職実践演習』では、例年群馬大学附属幼稚園の養護教諭を外部講師として迎え、保健指導の実際、様々な教材を使っての子どもへの指導方法、子どもに伝わる話し方、緊急時やケガ発生時の保護者への対応などを学んでいる。その学びを遊びの広場「おひさま」での保健指導に活かす様子もうかがえた。

- c 例年同様、2年生『療育支援論』で、群馬パース大学の理学療法士資格を有する教員や本校介護福祉学科の看護師資格を有する教員から、小児のリハビリテーション、医療的ケアについて学ぶことで、学生の療育支援への知識・関心を高めることができた。

《課題》

- a 次年度は履修科目を削減する予定であるが、医療的な知識及び学校保健活動の専門性に関する内容について学べるよう、授業内容を再構築する必要がある。

IV 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1				
	④	3	2	1	
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1	
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1	
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1	
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1	
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 本校の教育理念、教育目標、教育方針、各学科における職業訓練の特色については、オープンキャンパスや高校訪問、ホームページの掲載等、広く周知に努めた。
- b 本校学生に対しても、入学後のオリエンテーションや授業の中で学校の理念・目標、育成人材像などについて触れ、それに則った教育活動を行っている。

② 課題と改善方策

- a 積極的に学校に関わってくださる保護者等の方には、本校の理念・目標・育成人材像など学校に関する様々なことを説明する機会があるが、今後も多くの保護者等の方に理解していただけるよう、さらに情報提供を行いたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- 本校の教育理念及び目標が理解されることは、本校が育成する専門職の理解にもつながる。多様な機会を通じて本校の教育の周知を図ってほしい。特に保護者についてはさらなる周知の強化に努められたい。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1	
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1	
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1	
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1	
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1	
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1	
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 毎年4月、「校務分掌」(いわゆる事務分担表)の見直しを実施している。これにより、教職員それぞれの職務内容と責任を明確にし、全教職員が引き続き持てる力を十分に発揮・協力して学校運営に当たる体制の構築がなされている。
- 特に、全教職員が参加する教務委員会(毎月最終金曜日)では、教育に関わる事項だけではなく学校運営に関わる事項に関する報告・協議等が行われ、教職員の共通理解が図られている。
- b 毎年6月、学校のホームページを通じて前年度の「学校関係者評価結果」を公表し情報公開に努めている。
- c 本年度も引き続き各種感染症対策の徹底に努め、学校行事等を安易に中止・規模縮小とせず、できること(何ができるのか)を考え実践する前向きな姿勢で学校運営に臨んだ。
- なお、本年度は4年ぶりにコロナ前と同様の形で学園祭(12月)を開催した。

② 課題と改善方策

- a 学生募集については、引き続き厳しい状況にあるが、県外の日本語学校に対して継続的に働き掛けてきた効果等もあって、今年度は、県外から応募してくる留学生の増加が顕著であった。今後の留学生対応については、校内で役割を分担すると共に情報共有を行い進めていくことが必要である。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- 全教職員が参加する教務委員会や各分掌において共通認識を持ち、各人が本校の職員であるという自覚と責任を持ち協力し合いながら任務に当たっている。今後も小規模校の良さを生かした機動力のある学校運営

を期待する。

- ・感染症対策の徹底に努めながら学園祭をはじめとした学校行事に積極的に取り組み、成果を上げていることは評価したい。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1	
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1	
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1	
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1	
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1	
授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1	
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1	
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1	
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1	
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1	
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1	
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1	

① 現状

- 看護、介護、保育、教育等の現場で活躍している人材やパース大学の教員を講師として招聘し、知識や技術

等の修得に力を入れている。

- b 学生による授業評価(授業評価アンケート)を教員の授業改善により良く活かす方法を再検討し、昨年度から専任教員は反省評価の文書表記も併せて行っているが、本年度は非常勤講師にも依頼した。
- c 進級・卒業判定については、学生便覧やシラバスに示され、進級・卒業の判定会議が開かれ、適切に対応している。
- d 本年度も関連分野からの講師依頼を積極的に引き受けたり、学外の研修へ積極的に参加したりしてきた。講師を招聘しての職員の研修については、警察の方を講師として不審者対策・対応について全職員を対象に行った。また、自動車の運転を安全に行えるよう、交通安全センターの協力を得て運転技能の確認や向上に関する研修を行った。
- e 本年度の本校の「介護福祉士国家試験」合格率は、83.3%(全国平均 82.8%、養成校合格率 71.5%)学科別では介護福祉学科 81.0%(21 人受験で 17 人合格)、介護福祉専攻科 100%(3 人受験で 3 人合格)の実績を残すことができた。

【介護福祉学科】

- a 実技の授業では、PAZ グループの連携強化の一環として、グループ内の介護職員の方が学生に実技指導を行った。学内での演習、学外での実習を通じて本校では、グループ内の病院や介護施設等との連携による「現場と密着した介護教育」、「即戦力教育」の実践に努めている。
- b 近年、医療依存度の高い人、医療的ケアが必要な人が増えている。こうしたことを踏まえ、医療的ケアの実地研修等の充実を図り、「特定行為業務従事者」認定証の取得を目指している。
- c 本校独自の取り組みとして、厚生労働省基準の 50 時間を約 3 倍上回る時間を確保して、医療的ケア授業の充実に努めている。

【介護福祉専攻科】

- a 少人数であることを前向きに捉え、学生の個性に合わせた個別指導や助言に努めている。
- b 国家試験対策として、国家試験対策講座を設定し、全体的な指導を 5 月より開始し、11 月からは個別指導に重点を置き、学力向上に努めた。

【保育学科】

- a 本年度、1 年生は「保育士コース」及び「保育士・幼稚園教諭コース」の2つのコースを設置した。「保育士・幼稚園教諭コース」は保育士資格に加え、小田原短期大学との教育連携により幼稚園教諭免許を取得するため、より多くの単位を取得する。さらに保育実習の他に教育実習の体験も加わることで、子どものかかわりの経験値も多くなっている。本校の授業は両コースの学生が一緒に受講しているためコース間の学びの違いが生じ、学びの違いに対する考慮が求められる場面も多くあった。
- b 保育実習・教育実習後、各実習先の実習評価が基準点に満たない学生については、実習担当教員が補完を行った。その内容は、指導案立案と実践(模擬保育)、実習日誌の記載、ビデオ視聴を通した子ども理解と援助、保育実習生としてふさわしいマナーや態度・自己表現のための行動モニタリング等の課題を中心に特別学習計画を組み、資格取得に向け基準点に達するまで繰り返し指導している。
- c 開設当初より『保育キャリアデザイン』『実習指導』の授業の一環として、現役の園長や保育者・施設職員及び

卒業生等を外部講師として依頼している。それは、保育者として必要なキャリア教育・実践的な職業教育の修得や現場との連携につながっている。

② 課題と改善方策

- a FD について、今後は OJT の実施を含め、専門性や資質向上のための研修方法を取り入れ、効果的な内容の研修に取り組む必要がある。
- b カリキュラムや教育方法の改善について、関連施設等からさらなるご意見がいただけるような対策を行う。

【介護福祉学科】

- a 現在、特別な課題等はない。

【介護福祉専攻科】

- a 現在、特別な課題等はない。

【保育学科】

- a 次年度は、コース間の学びや経験の違いを配慮した授業展開が必要である。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・授業の充実を図るには、現場の実態把握や意見聴取が必須である。本校では介護現場や保育現場と連携しながら授業や実習を行っている。今後は教育方法の改善やカリキュラムの改定につなげられるよう一層の連携を図ってほしい。
- ・介護福祉士国家試験の合格率が 83.3% で全国平均を上回る。引き続き国家試験対策に尽力されたい。

(4) 学修成果

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1	
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1	
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1	
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1	
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 2024年3月、介護福祉学科、保育学科及び介護福祉専攻科の卒業生については、就職を希望する学生は全

員が内定している。就職希望者に対する内定率は、介護福祉学科及び介護福祉専攻科 100%、保育学科 100%である。

- b 2023年度の退学・除籍者は、4人(介護福祉学科1年2人・2年0人、保育学科1年2人・2年生0人、介護福祉専攻科0人)であった。

参考:2022年度 7人(介護福祉学科1年5人・2年1人、保育学科1年3人・2年0人、
介護福祉専攻科0人)

2021年度 4人(介護福祉学科1年2人・2年1人、保育学科1年0人・2年1人、
介護福祉専攻科0人)

【介護福祉学科】

- a 国家試験対策として模擬試験(学内・全国模試)を実施するなど、学習指導を強化し、合格率の向上に努めている。(3)教育活動参照)
- b 留学生等への学習及び生活の支援を細やかに行った結果、退学率は少数を保っている。

【介護福祉専攻科】

- a 国家試験対策として、対策授業、個別指導を実施するなど学習指導を強化し、合格率の向上に努めている。
- b 就職活動においては、学生自身がここで働くという強い意志を見出せる施設を見付けることに力を入れている。目標として12月中での就職内定を目標に掲げているが、就職することのみを目標とせず、時間がかかっても学生個人にあった施設へ就職できるよう支援している。

【保育学科】

- a 本年度は、コロナ禍の園見学やボランティア等の制限が解除されたことで就職活動が円滑になった。昨年度は園見学のみで採用試験に臨む学生が多かったが、本年度は体験ボランティアも可能な施設が増えたことにより、就職先と学生双方にとって就職のミスマッチを防ぐことが出来る体制になった。
- b 例年、卒業生支援の一環として、卒業生の就職後の悩み解決のために、新卒の卒業生の就職先を訪問する「採用御礼」を行っている。さらに、新卒に限らず来校や電話での相談に応じ、今年度は、ぐんま保育士就職支援センターの紹介、来校やオンラインでのピアノレッスンをを行うなど丁寧に対応した。
- c 前出の「採用御礼」で得た情報は、在校生への実習指導及び就職活動の支援に反映させている。
- d 学生の就職活動は、群馬県幼保認こ委員会が運営する「園マッチぐんま」の充実と学生の認知に伴い、合同就職説明会への参加やそのサイトの求人情報を活用して就職活動に臨む学生が増えた。そのほかに、高崎市保育士就職説明会や伊勢崎市私立保育園会の施設見学会などに積極的に参加する様子が見られた。

② 課題と改善方策

- a 以前より就職活動においては、社会的に介護福祉士・保育士が不足している状況にあるため、最終的な就職率は100%である。今年度は、早期より就職活動を支援してきたが、最終的に就職希望者の就職が決定するまでに例年並みの期日を要した。次年度は早期から就職活動を開始するよう促すと共に学生の資質や特性等を把握し、学生に寄り添った支援をしていく必要がある。
- b 退学率は低減している状況であるが、学生が学びを継続できるようさらに、学習及び生活に関する指導が必要である。

c 今年度はコロナ禍の制限が解除されたことで就職支援や卒業生支援も活性化しつつある状況だった。次年度は、より一層可能な範囲を広げながら実行する必要がある。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・保育学科の採用御礼、介護福祉学科の資格登録・資格手続き等の指導など、学生が卒業をした後も継続して支援を行っていることは高く評価される。
- ・退学者数は低い数値を保っているが、数字だけで判断する必要はない。退学者が自分らしく生きる道を見つけ、退学を発展的解消に繋げられるよう支援していくことも重要である。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1	
課外活動(ボランティア等)に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1	
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1	
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1	
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1	
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1	
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1	
関連分野における業界との連携による卒業後の再教育プログラム等を行っているか等	④	3	2	1	

① 現状

- a COVID-19が5類感染症に移行したが、学生の健康管理については、校長のリーダーシップのもと、全教職員が連携・協力して、換気をするなど基本的な感染対策を講じている。
- b 急務である介護福祉士及び保育者の養成については、国、県、各種団体等による修学支援制度が多数整備

されていることから、奨学金を必要とする学生に対しては、各種支援制度を紹介し、その申請手続きなどの支援を行っている。また、PAZ グループ独自の奨学金「PAZ 奨学金(高校3年生申し込み限定)」と「PAZ 奨学支援金(在校生向け)」(他制度との併用可・返済免除あり)が整備されており、介護福祉学科の在校生にも支援を行っている。なお、「高等教育修学支援新制度」の対象校に認定されている。

- c PAZ 祭(学園祭)は、COVID-19 が5類感染症に移行したことで、飲食を可能とし14時まで開催した。飲食をキッチンカーに依頼したことで、学生が学習成果の発表に専念することができた。外部への周知は、チラシの配布だけでなく、SNSを活用し、457名の方が来場した。卒業生も多数来校し、交流と卒業後のアフターケアの場にもなった。また、保護者面談を導入しており、保護者との連携も図っている。
- d 2020年3月26日付けで関東信越厚生局長から国民年金の「学生納付特例法人」の指定を受けたことから、学生の国民年金の申請等に対応している。
- e 介護福祉学科では、卒業生支援として、資格の登録手続きの確認(新卒の方・5年経過措置対象の方)や在留資格「介護」への変更確認(新卒の留学生)を、本人と勤務先の施設に対して実施した。また、本校で開講している実習指導者講習会では、卒業生割引を導入しており、卒業後にスキルアップをしやすい環境を整えている。
- f 2020年4月より学生寮「Paz Dormitory shibukawa」を学校に隣接する場所に設置している。10部屋でバス・トイレ・キッチン・冷暖房完備の設備で、学生の利便性向上に寄与している。今年度は、寮生にとって住みやすく、衛生面で安心して生活が送れるように、害虫対策や除草剤の散布を行った。

② 課題と改善方策

- a PAZ 祭(学園祭)については、来場者が多く、駐車場が混みあってしまった。臨時の駐車スペースの確保や外看板の設置、当日の駐車場係を配置するなど対策を検討していく必要がある。

③ 学校関係者評価委員会による評価

・学生が不安なく学生生活を送れるよう健康管理をはじめ、奨学金制度紹介やフードドライブの実施等経済的支援、各種手続きの指導など多様な支援を行っている。今後も学生のニーズに合わせた支援を継続してほしい。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1	
学内外の実習施設、インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1	
防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 6月、教職員の退職・採用等に伴う新年度の「防災体制」を確認すると共に、渋川市消防本部の指導の下、学

生及び教職員を対象とした防災訓練を実施した。

- b 7月、渋川市消防本部の協力を得て、「地震体験車」等を使った災害対処訓練を実施した。特に、あまり地震が発生しない国からの留学生もいることから、極めて意義のある訓練になっている。
- c 学校と実習施設との関係は良好で、学生の指導に関する連携も図られている。海外研修については実施していない。
- d 2019年よりトレーニング用のジムコーナー(スペース)をふれあいカフェ(渋川市子育て支援総合センター)に設置していたが、学生より卓球など、レクリエーションや運動ができるスペースが欲しいという要望があったため空き教室を解放し、卓球台の設置等を行った。それに伴いジム用品を移動し、より活用しやすい環境を整備した。
- e 昨年課題にあげた保育学科で所有しているノートパソコンについて新規リースを組み、入れ替えを行った。

② 課題と改善方策

- a 現在、防災マニュアルは策定されているが、今後、「自然災害発生時における業務継続計画(BCP)」を策定する予定。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・既存のトレーニング用ジムコーナーのほか、学生の要望により空き教室を開放し卓球台を設置するなど、学生生活の充実を図れるよう環境整備を行っている。今後も学生の意見を取り入れながら環境の改善をしてほしい。

(7) 学生の受入募集

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1	
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1	
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 評価項目について、本年度も適切に行えている。
- b 本年度も、COVID-19 感染予防対策を徹底し、例年通りの対面で 10 回のオープンキャンパスを実施し、その参加者は、延べ 59 人であった。また、在校生とオープンキャンパス参加者との関わりを増やすことや、プログラム内容等に変化をつけることで、繰り返し参加して下さっている方にも配慮した内容とすることができた。
- c 各種広報媒体(インターネット、新聞広告)を活用した広報・募集活動を積極的に実施している。
- d 本年度、専門学校単独での公開講座を 12 月、本校学園祭(PAZ 祭)と共に実施した。多くの参加者に来ていただけたことで、地域貢献はもとより、学校を知っていただく広報活動の一環にもなった。

- e 学校広報、地域貢献、福祉の啓蒙などを目的に、小、中、高校や社会人を対象に、本校教員が出前授業を行うオープンレクチャーも行っている。本年度は、第一学院高等学校高崎キャンパス 1・2 年生希望者を対象に実施した。これらの活動をさらに多くの学校等へ周知し、活用していただけるよう、1 月、本校副校長が渋川市小中学校校長会議において事業の紹介を行うとともに、書面で北毛地域の小、中、高校への周知を行った。
- f 群馬パース大学の学園祭(流星祭)において専門学校の説明ブースを設置した。
- g 本年度も「ベスト介護Japan」への学生の挑戦を通して、本校のPRを行うことができた。
- h パンの販売に来校している店舗や、生徒募集に来校している自動車学校に協力を依頼し、本校のリーフレットを置いていただくことで学校広報の協力の機会を得た。
- i 定期的に行っている高校訪問では、例年現役入学生が本校での学校生活の様子を母校に伝える「卒業生だより」を持参しているが、本年度は「卒業生だより」に加え、本校を無事に卒業し就職したことを報告する「就職報告だより」を作成した。
- j オープンキャンパスの日程について、例年主に土曜開催としていたが、より多くの層への参加者増加を目的とし、本年度より日曜開催日と夏季休暇中の平日開催日を設けた。開催時間については、電車など公共交通機関で来校する学生にも配慮した時間に変更した。
- k 毎年春に発行している「学校案内」について、これまで冊子形式で作成していたが、本年度は他校の学校案内に埋もれないようなデザインと形状を取り入れ、学校の PR だけではなく職種理解を深めることを目的とした「活用していただける」「掲示していただける」リーフレット形式の学校案内を作成した。読みやすい内容量とサイズにしたことで、例年より多く配布し周知を図ることが可能となった。
- l 学校案内のリーフレットと連動する形で、本校 HP 上にて新たに PAZGroup へクローズアップしたページを作成した。リーフレットと同様職種理解を促進し、また PAZGroup 内介護施設のイベントや職員インタビューを掲載することで、PAZGroup 内施設の周知、延いては介護人材確保に繋げることができるようにした。
- m 委託訓練公募開始と共に、群馬県全域のハローワークを定期的に訪問し、広報活動を行った。近隣のハローワークが開催する委託訓練校説明会に参加し、さらには委託訓練について幅広く知ってもらえるよう高崎イオン掲示板など、掲載媒体を増やすなどして広報に力を入れている。ハローワーク訪問時には、委託訓練生の意見などを掲載したチラシを持参し、学校生活や委託訓練制度を使用した際のイメージができるようにした。また、新たに位置情報を活用した Web 広告を配信することで、より広告効果の高い層(ハローワーク訪問者且つ AI 計測による年齢層別 Web 閲覧者)への周知を図った。
- n 新入生に対し、本校に入学を決めた理由や、入学して実感したことなどについてアンケート調査を実施した。その結果についてオープンキャンパスやガイダンスなどで紹介し、高校生の進路検討の情報とした。

② 課題と改善方策

少子化の影響も大きく、高校からの現役生入学者は減少傾向にある。少ない福祉系進学希望者を各養成校がそれぞれ獲得しようと努力しているが、各学校とも定員に満たない状況の中で、高校生に進学先として選ばれる魅力ある学校を目指す必要がある。また、高校生のみならず、社会人、外国人留学生、委託訓練生の募集方法なども工夫し、次のような改善策で募集に臨みたい。

- a 高校訪問を足繁く実施し、またオープンキャンパス案内チラシや本校 HP などを活用して効果的に本校のことを知っていただけるように工夫していく。また、進路決定をする時期には、学科担当教員が高校訪問に同行する等継続して全体で協力、調整を行う。

- b 入学後、各科新1年生を対象に入学を決めたきっかけなどの意識調査(アンケート)を継続し、今後の学生募集、広報活動の参考としていく。
- c オープンキャンパスでは、体験授業を通してこれまで以上に学生と教員が共に授業を創り上げていく様子を伝えるようにする。また、在校生と、オープンキャンパス参加者との交流や意見交換の場を増やす工夫を行うことで、学生の声を直に聴くことができる機会を増やす。
- d 学校生活や授業風景がイメージできるような動画を作成し、オープンキャンパスの受付後から開始までの待ち時間に上映し、入学後の自分をイメージできるようにする。また、PAZGroup の職場紹介も併せて上映し、学校理解や職場理解などの機会も作る。
- e 学生募集における広報活動は多岐にわたるため、年間スケジュールを立て、月に一回担当者会議を開催し、動きの確認や情報の共有などを継続して行う。
- f オープンキャンパスや、委託訓練説明会について、参加者の不利益にならないような日程及び時間設定を検討し、実施する。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・従来の広報活動にとらわれず、新しい取り組みを取り入れながら学生募集をしている点が評価できる。特に高校訪問では、ターゲットを絞っての重点的な訪問を心がける等、意欲的な姿勢が窺われる。また、留学生をはじめ多様な立場の学生の受け入れを行っていることは、社会のニーズに沿ったものと言えよう。今後は、日本人学生の獲得も視野に入れた募集活動を展開していただきたい。

(8) 財務

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1	
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1	
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1	
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 法人全体(大学、大学院、専門学校)の収容定員充足率が各年度 100%超で安定的に推移する中で、学生生徒等納付金が十分に確保されており、経常収支差額比率をはじめとする各種の財務比率も概ね良好で、財務基盤は安定している。
- b 予算の編成については、各部局毎(法人、大学、大学院、専門学校)に策定される次年度方針に基づき予算案が生まれ、3月開催の理事会・評議員会にて承認を受けている。また実際の予算執行時には起案書を作成・回覧し、改めて使用内容等の詳細について確認・検討を行うこととしている。
さらに半期実績等に基づく補正予算を適宜編成している。

c 本法人の会計監査については、公認会計士による外部監査^{※1}、及び監事による学内監査^{※2}、から成っている。

※1 公認会計士による外部監査…加藤会計事務所による期中監査及び決算監査を受けている。監査契約書に定められている監査従事者の監査見積時間数は①監査責任者 50 時間、②公認会計士 90 時間、③その他 80 時間…合計 220 時間となっている。

※2 監事による学内監査…「学校法人群馬パース大学 監事監査規程」に基づき作成された監査計画に沿った監査が行われている。2 名の監事は理事会及び評議員会への出席に加え、学校法人の管理運営を適正に行うため、理事会と教学間の意志疎通を図ることを目的として毎月 1 回開催される法人運営会議にも出席しており、学校法人の業務全般を状況把握した上で、期中・期末には決算等概要について、財務部及び公認会計士より概況聴取及び意見交換を実施している。

d 本法人の情報公開については、「学校法人群馬パース大学 情報公開規程」に則り、毎年度決算終了後、財務情報(財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書)及び監事による監査報告書をホームページ上に掲載するとともに、各事業所へ備え置き一般の閲覧に供している。

② 課題と改善方策

現在、特別な課題等はない。

③ 学校関係者評価委員会による評価

・学校法人の財務状況については、引き続き良好と認められる。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
	④	3	2	1	
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1	
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1	
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1	
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1	

① 現状

a 毎年、自己点検評価については、全教職員が分担して取り組んでいる。そして、評価項目ごとに成果や課題を検討し、次の課題を明確にするなど学校全体の質的向上への反映に努めている。

なお、6 月に、学校のホームページを通じて 2022 年度「自己評価報告書」及び「学校関係者評価報告書」を公表した。

b 学生及び教職員の個人情報に関する情報漏えい事故等は発生していないが、引き続き「個人情報保護に関する規程」等に則り、その適正管理に努めている。

- c 2020 年度から、非常勤講師に対して個人情報(特に学生に関する個人情報)の漏洩防止の徹底を図るために誓約書の提出を求めることとしているが、今年度も継続実施した。
- d 留学生の管理については、東京出入局在留管理局から最上位の「適正校(クラス I)」に選定されている。こうしたことから、来年度から更に留学生の在留資格更新手続きが簡便になる。(5年連続「適正校」)

② 課題と改善方策

現在、特別な課題等はない。引き続き法令等の遵守に努める。

③ 学校関係者評価委員会による評価

・留学生に対して適切な指導が行われている。その結果、東京出入国在留管理局から5年連続で「適正校(クラス I)」に選定されていることは高く評価できる。引き続き適正な管理と指導に努められたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2	1	
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1	
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 春季～秋季の毎月末、学校行事として実施している環境美化活動では、学校敷地内の清掃のみならず、学校周辺道路等の清掃も行っている。また日本たばこ産業(JT) 上信越支社との JR 渋川駅前・合同清掃活動『ひろえば街が好きになる運動』を、今年度は1回(10月)実施した。
- b 渋川署との連携による、特殊詐欺被害防止・交通事故防止等を訴える啓発活動(注意喚起チラシやグッズの配布)を、JR 渋川駅前等で1回(10月)実施した。過去のショッピングセンターなどでのチラシ配布を含め、5年間にわたるこの活動が認められ、渋川市警察より感謝状を、また群馬県生活子ども部及び県警本部より感謝状を授与された。
- c 介護福祉学科および介護福祉専攻科では、福祉系高等学校の授業内で開講される介護職員初任者研修へ、本校教員を講師として派遣している。
- d (学外の)介護従事者向けスキルアップ研修(喀痰吸引等研修、実習指導者研修)や介護福祉士になるための基礎的な知識・技術を学ぶ研修(実務者研修)を開講している。
- e 保育学科では、群馬県教育委員会・幼児教育センター事業の『保育アドバイザー』に委嘱された本校教員が、幼児教育に携わる方を対象とした各種研修会等に講師として派遣されている。また『幼稚園等新規採用教育研修指導員』に委嘱された本校教員が、直接園に赴いて指導に当たっている。
- f 本校に届くボランティア募集等の情報は担当者が随時受け付けし、学生が自由に閲覧・申し込みできるよう掲示板への貼付と就職相談室への配架を実施している。また実習・就職実績がある施設等からの案件について

は、必要に応じて教員より学生へ個別に声掛けも行っている。

- g 本校主催の来場型公開講座「共生社会の実現に向けてーパラアスリートから学ぶー」を12月に開催。講師にパラアスリート(ボッチャ)の岩下穂香氏を招き、講演およびボッチャの実演を行った。
- h 本校が有する人的教育資源の地域還元を目的とし、設置分野である『保育』『介護』の専門知識を生かした個性ある Open Lecture (出前講座)を実施している。※受講料無料(「(7)学生の受入募集」参照)
- i 群馬県の公共職業訓練(ハロートレーニング)受託校として、①介護福祉士コース ②保育士コースを開講し、今年度はそれぞれ①4名 ②12名の訓練生を受け入れている。
- j その他、介護福祉職の仕事のやりがいを発信しイメージ向上を図るため、日本介護福祉魅力研究会が介護の日(11月11日)に合わせて開催した「第2回ベスト介護 JAPAN・学生の部」にて、本校の学生が出場し昨年に引き続き優勝している。

本校の教職員および学生による、その他の社会貢献・地域貢献については、別添資料4「2023年度 主な地域貢献活動一覧」を参照のこと。

② 課題と改善方策

引き続き積極的に社会貢献・地域貢献活動に取り組んでいきたい。

③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・地域連携事業の一環として、多くの本校教職員が研修会等の講師として派遣されており、好評を博していることは特記に値する。
- ・公開講座では、大勢の来場者が訪れ好評だったとのこと。今後も本校の特性を活かした講座を開催し、地域への貢献をしてほしい。
- ・JR 渋川駅前において毎年行っている清掃活動及び警察署との連携による特殊詐欺被害防止・交通事故防止等の啓発活動を通して本校の教育理念が社会に伝わっている。そのような本校の活動が認められ、渋川市及び群馬県より感謝状が授与されたことは喜ばしい。今後も活動が継続されることが望まれる。また、その実績をさらに広く外部に発信していくことも必要であろう。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4、 ほぼ適切…3、 やや不適切…2、 不適切…1				
	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1	
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1	

① 現状

- a 昨年度に引き続き、留学生確保のために広報活動を積極的に行っている。具体的には、県内の日本語学校 5

校に向けて、3回の訪問ガイダンスを実施し、計84名の留学生に本校のアピールを行った。また、昨年度はCOVID-19の影響から、日本語学校修了予定者が減少したため、県外の学生向けオンライン説明会は4回(3校13名)に留まっていた。しかし、本年度はオンライン説明会の依頼が増加し、すべての依頼に随時対応している。その結果、県外の留学生に向けて、オンライン説明会を50回実施し、合計41校の留学生105名に実績を残す。説明会では本校の学習内容や奨学金について理解を深めていただけるように配慮した。

- b COVID-19の影響による日本入国解除後に留学した学生の多くが、本年度に日本語学校の過程を終えるため、受験申込者が増加した。出願者は77名に上る。その結果、日本語能力だけでなく、日本語学校での出席率、人物、学習に取り組む姿勢等を総合的に判断した入試選考を行い、37名の合格者を出した。日本語能力が著しく欠けている学生や、介護について興味のない学生は不合格とする選考を行い、一定レベルの学生の確保につなげている。
- c 本校の学生紹介制度が浸透しており、学生を通した紹介が定着している。本年度は本校の学生や卒業生30名から紹介があり、その結果49名の出願があった(うち、合格者は26名)。
- d 日本年金機構(厚生労働省関東信越厚生局)と「学生納付特例申請」の代行事務契約を結び、留学生の年金手続きを一括で行っている。そのため、渋川年金事務所を訪問し、年金事務所職員と担当教員で面談確認を実施し、学生の年金手続きに漏れがないように留意している。
- e 専門家(弁護士、行政書士など)に相談できる「ぐんま外国人総合相談ワンストップセンター」を紹介している。
- f 日本語学校に『学生納付特例事務法人の指定』の検討を依頼する文書に、本校の名前と写真が掲載されている。
- g SDGsのフードロス・貧困対策の点から、渋川フードバンクや教職員、協力者から食料品や衣料品・生活雑貨を一括預かり、留学生や生活に困窮している学生へ定期的に配付している。
- h 東京入国管理局から令和5年教育機関の選定結果について「適正校(クラスI)」として認定された。その結果、留学生の在留更新が以前より簡易となっている。
- i 留学生の在留資格に関し、「申請等取次者」の資格を東京入国管理局より取得している。在留資格の更新・変更時の取り次ぎの他、入学時・卒業時、5月と11月の届け出、退学者が出た場合は随時、その他、年1回の定期報告を実施している。在留資格の資格喪失に関しては学生へ注意喚起しつつ細心の注意を払い、支援を行っている。
- j 留学生の語学力については個人差が大きい。基本的な日本語を習得済みで日本語学校を卒業しているはずだが、それが不十分な学生も多く在籍しているのが現状である。しかし、日本語指導の時間を確保することは時間割的に難しく、現在は毎週課題を提出させることで対応している。その結果、飛躍的な日本語能力の向上は認められないものの、毎週の日本語の宿題が定着しており、日本語の勉強が必要であるという意識改革は成功している。

② 課題と改善方策

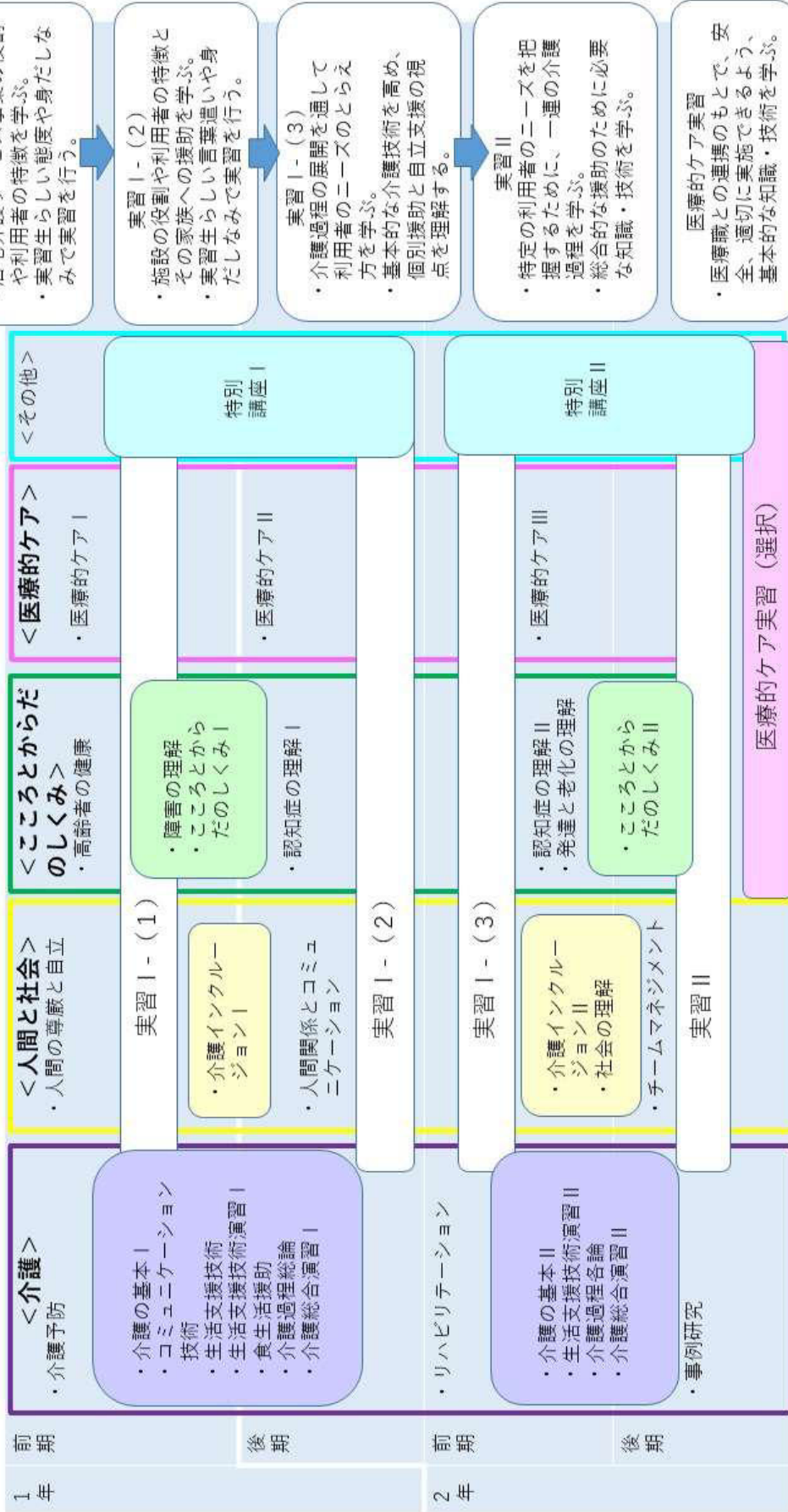
- a 留学生は、日本語学校を卒業後本校に入学しているが、語学力で個人差があることや専門用語について理解が十分でない学生もいる。留学生の日本語能力向上については常の課題である。具体的に個々に日本語能力試験合格の目標を持たせ、意識付けをした上で、専任教員を中心にサポートしていきたい。
- b 優秀な人材を確保し、育成していくことで群馬県全体の介護業界に貢献していくことが本校の使命である。そのため入学試験において、本人の日本語能力や「学ぶ」意識を見極めて選考していく必要があり、また入学

後は日本語能力のみならず、日本における職業人に求められる生活態度等についても指導を行っていきたい。

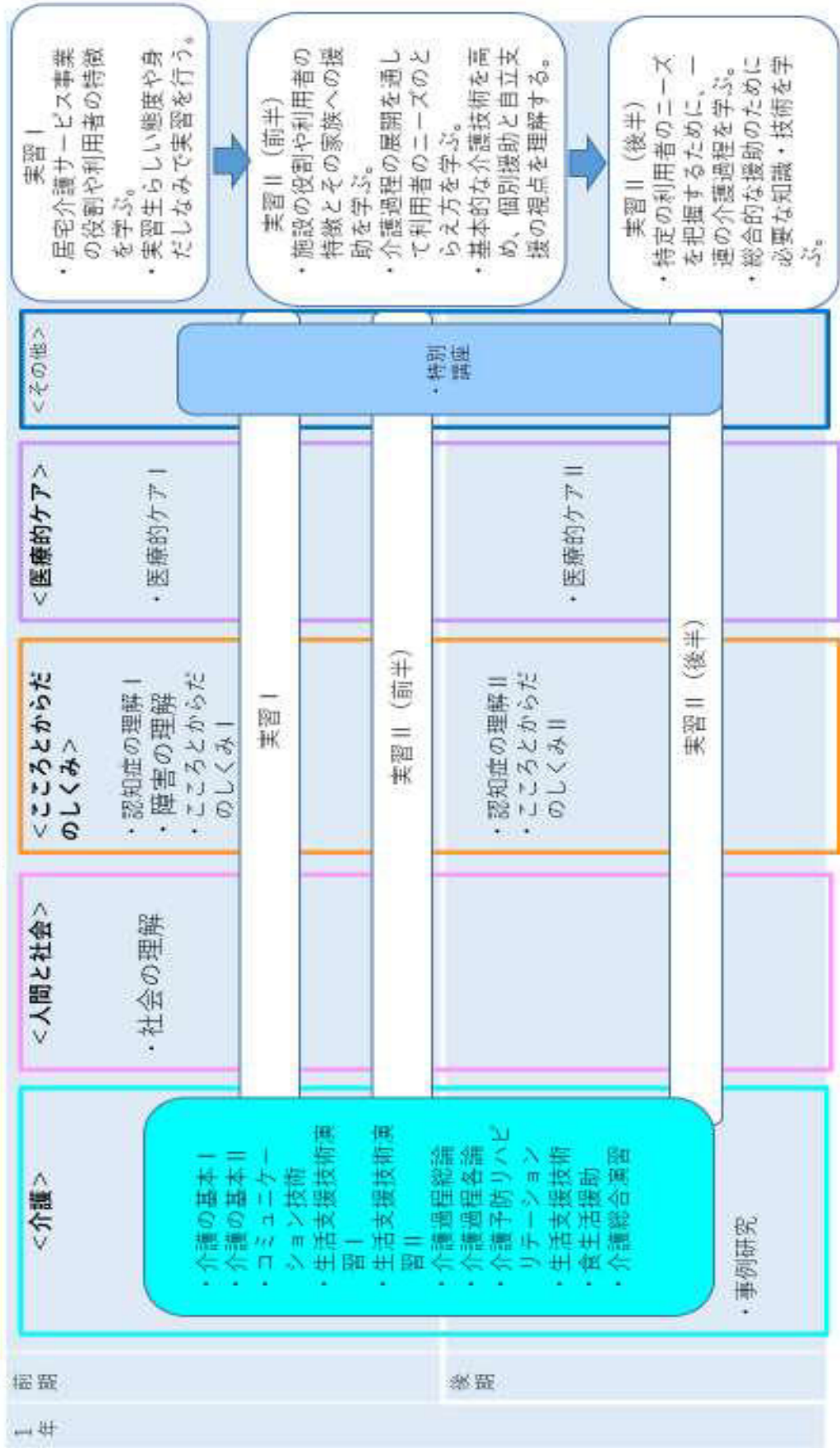
③ 学校関係者評価委員会による評価

- ・留学生の受け入れを積極的に行っている。また、教職員が連携を取りながら、受け入れ後の留学生の生活の保障及び指導を行っている。引き続き留学生の日本語能力、生活態度等の向上に向けての指導に努められたい。

介護福祉学科カリキュラムマップ



介護福祉専攻科カリキュラムマップ



学校関係者評価委員名簿

	氏名	役職	所属	分類
1	塩崎 猛雄	委員長	群馬パース大学福祉専門学校 非常勤講師	教育に関し知見を 有する者
2	笛木 陽介	副委員長	社会福祉法人パースの森 ヴィラージュ尾瀬 施設長	関連業界等関係者 (介護)
3	長塩 香子	委員	渋川市立渋川幼稚園 園長	関連業界等関係者 (保育)
4	河田 功一	委員	社会福祉法人永光会 特別養護老人ホーム永光荘事務長	関連業界等関係者 (介護)
5	蜂須賀 和夫	委員	幼保連携型認定こども園 国分寺幼稚園 園長	関連業界等関係者 (保育)
6	飯塚 翔	委員	医療法人社団ほたか会 群馬パース病院 介護主任	卒業生

2023年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
1	保育学科	都丸千寿子	5月19日	金	講師派遣	群馬県国公立幼稚園・こども園 PTA連絡協議会総会・研修会	群馬県国公立幼稚園・こども園のPTA	渋川市立赤城幼稚園	県内国公立幼稚園54園	書面開催
2	保育学科	都丸千寿子	5月19日	金	講師派遣	群馬県幼稚園等新規採用教員研修	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	153名	事前録画による配信
3	保育学科	剣持佐智子	5月24日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	嬭恋村立東部こども園
4	保育学科	小林由井子	5月30日	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園
5	保育学科	小林由井子	6月9日	金	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園
6	保育学科	小林由井子	6月15日	木	学校評議員	渋川市立こもち幼稚園学校評議員委員会	渋川市立こもち幼稚園	渋川市立こもち幼稚園	委員4名、園長他	渋川市立こもち幼稚園
7	介護福祉学科	高草木めぐ美	6月20日	火	講師派遣	介護職員初任者研修	渋川青翠高校3年生	渋川青翠高校	高校3年生:15名	渋川青翠高校
8	保育学科	都丸千寿子	6月27日	火	学校評議員	渋川市立北橋幼稚園学校評議員委員会	渋川市立北橋幼稚園	渋川市立北橋幼稚園	委員5名、園長他	渋川市立北橋幼稚園
9	保育学科	剣持佐智子	6月28日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	嬭恋村立東部こども園
10	保育学科	小林由井子	7月4日	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園
11	保育学科	塩澤 恵美	7月10日	月	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県保育施設に勤務する職員	群馬県社会福祉協議会	保育士200名	群馬県市町村会館
12	保育学科	井上 暁子	7月10日	月	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県保育施設に勤務する職員	群馬県社会福祉協議会	保育士200名	群馬県市町村会館
13	保育学科	剣持佐智子	7月12日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	嬭恋村立東部こども園
14	介護福祉学科	魚屋真佐江	7月26日	水	講師派遣	群馬県キャリア形成訪問指導事業	はなみずき榛東職員	はなみずき榛東	接遇研修	はなみずき榛東
15	介護福祉学科	魚屋真佐江	7月27日	木	講師派遣	群馬県キャリア形成訪問指導事業	はなみずき榛東職員	はなみずき榛東	接遇研修	はなみずき榛東

2023年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
16	保育学科	小林由井子	8月1日	火	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県保育施設に勤務する職員	群馬県社会福祉協議会	保育士200名	群馬県市町村会館
17	保育学科	剣持佐智子	8月1日	火	講師派遣	群馬県教育・保育のキャリアアップ研修	群馬県保育施設に勤務する職員	群馬県社会福祉協議会	保育士200名	群馬県市町村会館
18	介護福祉学科	黛真人	8月9日	水	講師派遣	群馬県キャリア形成訪問指導事業	はなみずき榛東職員	はなみずき榛東	リハビリテーション	はなみずき榛東
19	介護福祉学科	黛真人	8月10日	木	講師派遣	群馬県キャリア形成訪問指導事業	はなみずき榛東職員	はなみずき榛東	リハビリテーション	はなみずき榛東
20	介護福祉学科	黛真人	8月17日	木	講師派遣	群馬県キャリア形成訪問指導事業	榛東村社協 デイサービス職員	榛東村社協 デイサービス	リハビリテーション	榛東村社協 デイサービス
21	介護福祉学科	千田仁	8月25日	金	講師派遣	群馬県キャリア形成訪問指導事業	はーとわーく職員	はーとわーく	職員研修	はーとわーく
22	保育学科	剣持佐智子	8月30日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	嬭恋村立東部こども園
23	保育学科	小林由井子	8月31日	木	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園
24	保育学科	剣持佐智子	9月5日	火	講師派遣	渋川市ファミリーサポートセンター研修	しぶかわファミリーサポートセンター任せて会員	しぶかわファミリーサポートセンター	まかせて会員13名	渋川市子育て支援総合センター
25	保育学科	剣持佐智子	9月13日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	嬭恋村立東部こども園
26	保育学科	小林由井子	9月27日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園
27	保育学科	小林由井子	10月24日	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園
28	保育学科	剣持佐智子	10月25日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	嬭恋村立東部こども園
29	介護福祉学科	魚屋真佐江	10月31日	火	講師派遣	群馬県キャリア形成訪問指導事業	はーとわーく職員	はーとわーく	接遇研修	はーとわーく
30	介護福祉学科	深澤みはる	11月8日	水	講師派遣	介護職員初任者研修	渋川青翠高校3年生	渋川青翠高校	高校3年生:15名	渋川青翠高校

2023年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
31	保育学科	小林由井子	11月13日	月	子ども・子育て会議	渋川市育部推進部子ども支援課	渋川市	渋川市こども課	委員20名	渋川市市役所
32	保育学科	剣持佐智子	11月15日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	嬭恋村立東部こども園
33	保育学科	剣持佐智子	11月17日	金	講師派遣	オープンレクチャー2023	第一学院高等学校高崎キャンパス1・2年生	第一学院高等学校高崎キャンパス	高校1・2年生10名	第一学院高等学校高崎キャンパス
34	介護福祉学科	深澤みはる	11月21日	火	講師派遣	介護職員初任者研修	渋川青翠高校3年生	渋川青翠高校	高校3年生:15名	渋川青翠高校
35	保育学科	都丸千寿子	11月21日	火	学校評議員	渋川市立北橋幼稚園学校評議員会	渋川市立北橋幼稚園	渋川市立北橋幼稚園	委員5名、園長他	渋川市立北橋幼稚園
36	保育学科	小林由井子	11月22日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園
37	介護福祉学科	深澤みはる	12月5日	火	講師派遣	介護職員初任者研修	渋川青翠高校3年生	渋川青翠高校	高校3年生:15名	渋川青翠高校
38	保育学科	小林由井子	12月5日	火	学校評議員	渋川市立こもち幼稚園学校評議委員会	渋川市立こもち幼稚園	渋川市立こもち幼稚園	委員4名、園長他	渋川市立こもち幼稚園
39	保育学科	小林由井子	12月12日	火	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園
40	保育学科	都丸千寿子	1月9日	火	講師派遣	高崎市私立幼稚園・こども園協会保護者講演会	高崎市私立幼稚園・こども園保護者	国分寺幼稚園	高崎市私立幼稚園・こども園保護者	オンラインセミナー
41	介護福祉学科	深澤みはる	1月10日	水	講師派遣	介護職員初任者研修	渋川青翠高校3年生	渋川青翠高校	高校3年生:15名	渋川青翠高校
42	保育学科	井上暁子	1月23日	火	講師派遣	渋川市放課後児童支援員研修	渋川市内放課後児童クラブ支援員	渋川市こども支援課	支援員27名 市職員3名	渋川市役所
43	保育学科	小林由井子	1月26日	金	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園
44	保育学科	井上暁子	2月2日	金	講師派遣	群馬県総合教育センター 研修講座	みなかみ地域内こども園保育教諭	みなかみ町子育て健康課	保育教諭30名	みなかみ町役場
45	保育学科	小林由井子	2月7日	水	新任指導員	群馬県幼稚園等新規採用教員研修会	群馬県幼稚園・こども園等の新規採用教員	群馬県総合教育センター	新任教諭対象	榛東村立南幼稚園

2023年度地域連携事業一覧

No.	部署	教職員名等	年月日	曜日	区分	内容	対象	連携先	備考	実施場所
46	保育学科	都丸千寿子	2月8日	木	学校評議員	渋川市立北橋幼稚園学校評議員会	渋川市立北橋幼稚園	渋川市立北橋幼稚園	委員5名、園長他	渋川市立北橋幼稚園
47	保育学科	都丸千寿子	2月8日	木	講師派遣	前橋市保幼小連携全体研修会	前橋市内全保幼こども園、 小学校職員及び国立幼小 特支希望者	前橋市教育セン ター	96名	対面及びzoom
48	保育学科	井上暁子	2月10日	土	講師派遣	群馬県総合教育センター 研修講座	藤岡市内の保育士・保育 教諭	藤岡主幹保育教 諭・主任保育士 会	保育者50名	藤岡市役所
49	保育学科	都丸千寿子	2月14日	水	講師派遣	群馬県幼稚園等中堅教諭資質向上研修	在職10～13年目の公立幼 稚園等教諭及び国・私立 幼稚園等教諭希望者	群馬県総合教育 センター	20名	オンライン研修
50	保育学科	小林由井子	2月16日	金	学校評議員	渋川市立こもち幼稚園学校評議委員会	渋川市立こもち幼稚園	渋川市立こもち 幼稚園	委員4名、園長他	渋川市立こもち幼 稚園
51	介護福祉学科	古川太基	3月19日	火	講師派遣	介護技術コンテスト解説者	たくみ・ベルジ・ほたか会 グループ	介護研修セン ター	オンライン	介護研修センター
52	保育学科	小林由井子	3月21日	木	学校評議員	卒園式参加	渋川市立こもち幼稚園	渋川市立こもち 幼稚園	委員4名、園長他	渋川市立こもち幼 稚園